本邦における海水の研究文献目録*

(1892 年—1950 年)

楠

宏** 編

は し が き

わが国で海水の見られるのは北海道近海に過ぎないが、古くから海水の観測や研究が行われている。現在(1950 年木)までにわが国で行われた海水に関する研究論文の目録を作成し、広く諸賢の参考に供したいと考えて次の方式で行った。

1. 日本人が日本近海の海水またはそれに関係のある事項についておこなった研究で、雑誌・報告書・単行本等に発表した原著論文または総合報告。
2. 下記のものは原則として収容しない。
 - i) 戦時中の秘扱いの印刷物
 - ii) 謄写・写本
 - iii) 通俗記事・翻訳文
 - iv) 測候所の毎冬の流結水報告—気象集誌の雑録欄・気象雑纂・海洋時報などに掲載のもの
3. 文献は年代順、著者名順(A, B, C 順)に配列
4. 雑誌等の誌名はなるべく原名に近くし、著者・題目・巻又は(号)数(ゴチツク)、号数、通し頁数の順に示した。なお次の例でわかることと思う。

(例) 1. 水科七三郎：流水の去来，気象集誌，

11, 10, 415—422.

巻数 号数 通し頁数

なお、上記 2 の iv) に属する流結水報告に類するものは、明治・大正年代に多いが、後日の便を考えると時代のものは収録しておいた。またわが国の近海のみならず、極海の海水について行つた研究、調査については触れなかつた。

以上の方式で 1892 年(明治 25 年)1950 年(昭和 25 年)に至る文献目録を作成したが、編者の渉覧不充分のため収録漏れもあることとおもわれる。この点については、諸賢の御注意を頂き、更に完全なものと致したい。

1892 (明治 25 年)

水科七三郎：流水の去来．気象集誌，11, 10, 415—422 ; 11, 451—458.

1904 (明治 37 年)

岩波常景：千島列島沿岸の流水．気象集誌，23, 2, 54—61 ; 3, 93—102.

1905 (明治 38 年)¹

星川信吉：網走湾の流水．気象集誌，24, 12, 277—283.

1906 (明治 39 年)

- 1 野田為太郎：九谷占丹港の結水．気象集誌，25, 8, 265—272.
- 2 豊倉鑄吾：北海沿岸流水の調査．気象集誌，25, 6, 181—191.

* Bibliography of sea ice in Japan (For the year 1892-1950), Compiled by Kou Kusunoki.

** 北海道大学低温科学研究所

1910 (明治 43 年)

FUJIHARA, S. Note on the problem of ice-formation. Bull. Cent. Met. Obs. Japan, 1, 3, 9—18.

1911 (明治 44 年)

- 1 星川 信吉：網走湾の流水。北海道気象月報，186，2—5；187，2—4，188，8—9。
- 2 星川 信吉：網走湾の流水。気象集誌，30，11，251—263。

1913 (大正 2 年)

宮城 深造：大正 2 年釧路沿岸流水概況 北海道気象月報，209，3—5。

1914 (大正 3 年)

- 1 根本 広記 根室沿岸の流水及結氷 北海道気象月報，220，5—7，222，4—8，223，2—6
- 2 根本 広記：オコツ海南部の流水。北海道気象月報，222，8—10。

1915 (大正 4 年)

佐藤 嶺敏 大正 4 年 1 月，2 月に於ける渤海湾の大氷原の状況。気象集誌，34，3，115—132。

1919 (大正 8 年)

荒木 丑平：北海道流水調査（大正 4 年以前）。北海道水産試験場水産調査報告，9，168—179。

1922 (昭和 2 年)

新帯国太郎 大連湾海水の観察，地球，7，5，354—377。

1928 (昭和 3 年)

西田 敬三。一旦氷結せる海水の塩分検定に就て。朝鮮総督府水産試験場海洋調査要報 1，17—24。

1929 (昭和 4 年)

- 1 網走・根室測候所 流水及結氷報告。附記，須田 皖次 紗那に於ける流結氷曲線に就いて。海洋時報，1，2，125—130。
- 2 根室測候所 根室港初流水来流報告。附記，須田 皖次 流結氷曲線について。海洋時報，1，1，51—53。

1930 (昭和 5 年)

須田 皖次：海水の形態に関する術語に就いて。海洋時報，2，4，752—757。

1931 (昭和 6 年)

- 1 須田 皖次：航海上より見た海水の種類 海と空，11，1，23—24。
- 2 須田 皖次：宗谷海峡及び亜庭湾の海水に就いて。海洋時報，3，2，438—446。
- 3 須田 皖次・関和男・ベーリング海，オコツク海及び近海各港の流結氷初終日。海洋時報，3，3，697—703。

1932 (昭和 7 年)

- 1 神尾 秀二 中部千島の気候（海水，13—17 P.）神戸海洋気象台彙報，47，1—18。
- 2 須田 皖次 根室港海水水中の塩分に就いて。海洋時報，4，1，265—267。
- 3 田口 龍雄・ベーリング海，オコツク海，日本海北部の海水に就いて。海洋時報，4，2，489—507。

1933 (昭和 8 年)

松平 康雄 結氷海水水中の蜆に就て。海と空，13，1，9—13，海洋時報，4，1，269—273

1934 (昭和 9 年)

- 1 須田 皖次 海水の厚さと其の変化。海と空，14，5，185—197
- 2 鈴見 四郎 根室湾流結氷平年の概況，北海道気象月報，463，48—49

1935 (昭和 10 年)

- 1 青山 浩 気温並に全積雪量と流水期間の相関 北海道気象月報，476，89—91
- 2 関東州塩業試験場 凍結採鹹に関する試験報告（第 1 報）関東州塩業試験場報告，3，1—22，

1936 (昭和 11 年)

- 1 青山 浩: 流水襲来に因る気温低下. 北海道気象月報, 486, 32—33.
- 2 宇田道隆・渡辺信雄: 今冬の北海道南海に於ける流水. 科学, 6, 5, 192—193.

1938 (昭和 13 年)

- 1 朝比奈貞一・大道寺重雄: 本邦に於て凍結採鹹は可能なりや. 気象集誌, II, 16, 10, 406—410.
- 2 樺太庁土木課: 水の強度試験報告.

1939 (昭和 14 年)

- 1 大田正次: 流水観測記 天気と気候 6, 5, 237—238.
- 2 丸川久俊: 北洋の水塊間及水塊面に現る植物浮游生物 水産研究誌, 34, 7, 219.
- 3 MIYAKE, Y. and H. MATUI: Freezing point, osmotic pressure, boiling point and vapour pressure of sea water. Geophysical Magazine, 13, 1, 111—116.

1940 (昭和 15 年)

- 1 倉塚良夫・林猛雄: 水主として海水と港湾の凍結に就いて 港湾, 18, 9, 1—14; 10, 1—12; 11, 1—10 12, 1—14.
- 2 水路部: 日本近海の海水の名称に就て. 水路要報, 19, 2, 49—50.
- 3 宇田道隆: 海水の結氷初期に於ける特異な水紋の観察. 科学, 10, 4, 122—123.

1941 (昭和 16 年)

倉塚良夫・林猛雄: 水主として海水と港湾の凍結に就いて. 港湾, 19, 1—5; 2, 1—13; 3, 1—5.

1942 (昭和 17 年)

野満隆治・斎藤泰一: 河海の結氷に就いて. 地球物理, 6, 2, 110—123.

1943 (昭和 18 年)

- 1 福富孝治: 海水の研究 (第 1 報), 亜庭湾の海水についての二, 三の観察. 日本海洋学会誌, 3, 79—83 低温科学, 2, 1—6, (1949).
- 2 日高孝次: 太平洋の海水 太平洋の海洋と陸水, 231—246, 東京, 岩波書店, 884pp.
- 3 木下虎一郎・石栗俊良: 根室地方の昆布の豊凶と流水との関係. 水産研究誌, 37, 2, 33—34.
- 4 宇田道隆: 海水と海流 雪水, 5, 2, 43—47.
- 5 宇田道隆: 流水塊の衰減に就いて. 海と空, 23, 4.

1944 (昭和 19 年)

- 1 福富孝治・吉田敬一: 凍結に依り塩分を濃縮する実験 日本海洋学会誌, 2, 4, 37—44; 低温科学, 1, 133—140.
- 2 須田皖次: 北洋の海水 雪水, 6, 5, 120—126.

1945 (昭和 20 年)

- 1 函館海洋气象台: 海水観測結果報告. 函館海洋時報 海洋時報, 2, 205—217.
- 2 田口龍造: 航海中に於ける航路先の海水予知の可能性に就いて. 函館海洋時報, 2, 218—222.
- 3 田口龍造: 水の硬度測定に就いて. 函館海洋事報, 2, 223—225.

1946 (昭和 21 年)

- 1 小林清次: 紗那の流水期間と東北地方の其年夏期気温並に米作収量との関係. 中央气象台彙報, 25, 1, 249—251
- 2 小林清次: 紗那の流水期間と北海道の其年夏期気温並に米作収量との関係. 中央气象台彙報, 252—254.

1947 (昭和 22 年)

- 1 田口龍造: 海水の物理的研究 (流水調査報告) 中央气象台研究速報, 22, 6.
- 2 田口龍造: 流水の漂流と風との関係 (流水調査報告). 中央气象台研究速報, 23, 9—13.

1948 (昭和23年)

- 1 福富孝治・海水の研究(第10報)陸水の水厚増加率と気温の週期的変化との関係. 低温科学, 4, 37—42
- 2 福富孝治・楠 宏・田畑忠司・海水の研究(第9報)彦雪法による海水上の凍結採鹹実験. 低温科学, 4, 29—36.
- 3 尾形哲・中川秀一・千島南部の海水に就いて 気象集誌, 26, 5, 138—145
- 4 須田皖次 北洋の海水分布について. 水路要報, 8, 33—42,

1949 (昭和24年)

- 1 福富孝治・長島富雄・楠 宏 海水の研究(第2報), 晶水の生成と水殻の組織とについて. 低温科学, 2, 73—76.
- 2 毛利茂男 海氷・湖水・河水 雪氷十年, 35—39, 東京, 東海書房, 241 pp.

1950 (昭和25年)

- 1 福富孝治・海水の研究(第3報)沿岸海水の生成についての理論的考察. 低温科学, 3, 131—142,
- 2 福富孝治・海水の研究(第4報)オホツク海中央部に於ける結氷生成についての理論的考察. 低温科学, 3, 143—157.
- 3 福富孝治・楠 宏 海水の研究(第5報)オホツク海南部沿岸に於ける流水終期の一近似的予報法. 低温科学, 3, 159—169
- 4 福富孝治・楠 宏・田畑忠司・海水の研究(第6報)海水の水厚増加について. 低温科学, 3, 171—186.
- 5 福富孝治・楠 宏: 海水の研究(第7報)気温の週期的変化に伴う水層中の温度分布. 低温科学, 3, 187—192
- 6 福富孝治・楠 宏・田畑忠司 海水の研究(第8報)網走・紋別に於ける沿岸海水下の海水の温度塩分について. 低温科学, 3, 193—206.
- 7 福富孝治・楠 宏・田畑忠司: 海水の研究(第12報)海水の海水に対する相対漂流の一測定, 日本海洋学会誌, 6, 1, 18—27. 低温科学, 6, 85—93 (1951)
- 8 田宮美彌・北海道近海における海水について. 水路要報, 16, 294—295.

随筆

乗鞍山頂の氷雪と共に生きる

森 下 博 三

拙稿を以て貴重なスペースを埋めることは私として非常に心苦しい次第であります。是非にとの早稲田大学木村博士の御好意ある御言葉に嬌えまして、過去に於ける体験の若干と感じたままを報告することにより、皆様の御理解ある御批判と御指導を仰ぎたく願つて止みません。尚投稿の期限も迫り取急ぎ纏めました為に不足の数々は御容赦下さいます様重ねて御願ひ致します。

其処の這松の蔭に、彼方此方となゝかまとか紅葉し、寒波の到来と共に厚い氷が張る様になる。登山客